

我孫子第三小学校 学校だより

Sunshine



学校 HP <https://abiko.schoolweb.ne.jp/103>

学校教育目標

自ら学び 支え合い
たくましく生きる子の育成

令和8年度 7月号

TEL 7184-1171

「熱中症予防と安全を守る態度の育成」

6月に暑い日が続きましたが、7月も気温や湿度が上がり蒸し暑さが増してきます。室内外を問わず熱中症に気を付けたい時季となりました。学校では、暑さ指数を測り、体育や外遊びの実施の有無などを検討しています。児童が「今日は暑いから外での活動ができないね。」「水分をちゃんと取らないと熱中症になっちゃうよ。」など自分たちで熱中症予防など安全面に対して判断できるよう指導を繰り返していきます。ご家庭でも登下校中に帽子を被るなどの暑さ対策や水分補給のために水筒を少し大きくするなどの熱中症予防のご協力をよろしくお願いします。

また、6月12日にゲリラ雷雨のため、引き渡しを行いました。スムーズな引き渡しへのご協力ありがとうございました。学校では、各種避難訓練などを行い児童に安全教育を行っていますが、今後もゲリラ雷雨等の際には、児童の安全を第一に考え、引き渡しを行うことがあります。その際には、Home&Schoolで連絡しますので、ご協力よろしくお願いします。その他にも、最近大きな地震が各地で起きたり、台風による大雨、強風などで各地に大きな被害が生じたりと自然災害が起きた際には、引き渡しを行ったり、臨時休業になったりすることもあります。ご家庭でも家にいる際に自然災害が起きたらどのような行動をとるのか、どこに集まるのかなどの対策を話し合ってください。



我孫子第三小学校 校長

お知らせ

○運動発表会の振り返りを次年度に生かします！

今年度は、これまで実施してきた学団ごとの運動発表会を経て、子供たちや保護者の皆さんからの意見を生かし、現在の本校の実態を鑑みて、運動発表会を全校参集型で実施しました。そして、その後、保護者の皆さんにアンケート調査を実施したところ、以下のような結果となりました。

回収率 80% (そう思うには「まあまあ」を、そう思わないには「あまり」を含む)

設問1 お子さんは運動発表会を楽しみ成長していましたか

そう思う 99% そう思わない 1%

設問2 お子さんが協力して過ごせていましたか

そう思う 99% そう思わない 1%

設問3 お子さんが団結できていましたか

そう思う 98% そう思わない 2%

設問4 運動発表会の組織や進行に満足しましたか

している 93% していない 7%



この結果から、全校参集の方法に対しては、9割以上の保護者が満足していることや、今回の運営の方法により、子供たちは協力し団結し成長できていたということがわかります。

しかし、自由記述の中には、満足している保護者の皆さんの中にも「運動会を実施してほしい」という意見が多くありました。また、その中で「運動会に必要な要素」として挙げられた意見で多かったのは以下のとおりです。

- ① 赤白組に分けて競い合うこと
- ② 得点をつけて勝敗をつけること
- ③ 応援合戦を実施すること
- ④ 紅白対抗リレーを実施すること
- ⑤ 係児童を設け、児童主体の行事にすること

今回は、特に多かった①～⑤のご意見について、「子供たちのために」の観点から、今後の運動発表会の運営に対する検討の方向性について、学校の考えをお伝えします。

① 赤白組に分けること

赤白組に分けて各学年の発表の中で、競い合う場を設けることは可能です。赤白組に分けることによって、クラス対抗ではなくなりますが、自分の所属する組を応援すれば、大いに盛り上がることは予想されます。競い合いの中から、子供たちの応援にも熱が入り、協力する力が高まりや団結力が大いに深まることも予想されます。

その反面、5月は、学級の団結を高めていくことが大切な時期です。その時期に、赤白の2つのグループに学級を分けて競い合うことが、子供たちが協力し合い団結力を高めるために効果的かどうかは、十分な検討が必要です。特に、現在の三小では3学級の学年が多くなっておりますので、赤白分けの際には、どうしても学級を2つに分ける必要がでてきます。そのような点も十分に考慮する必要があると考えます。

② 得点をつけて勝敗をつけること

得点をつけて勝敗を分けることによって、子供たちが大いに盛り上がることが予想されます。その結果が、子供たちの協力する力を高め、団結を深めることにつながるとも考えられます。

その反面、得点をつけることにより、運動が得意な児童にとっては活躍の場となりますが、運動に苦手意識をもつ児童については、自分の得点で全体の勝敗に影響が及ぶという事実に対して、プレッシャーを感じてしまう可能性があります。

運動発表会の形式によって、運動が得意な児童も苦手意識をもつ児童も、皆が意欲をもって主体的に参加できるという、現在の良さが失われてしまうことも懸念されます。子供たち皆が楽しく主体的に参加できる運動発表会を目指すのであれば、十分な検討が必要であると考えます。

③ 応援合戦を実施すること

応援合戦を取り入れるためには、赤白組に分かれること、応援団を選出することが必要となります。また、応援合戦を成功させるためには、応援団の練習時間と全校応援の練習時間を十分に確保する必要があります。応援には、「心を込めて全力で取り組む」ことが不可欠です。やるからにはよいものを創り、子供たちに達成感を味わわせたいものです。

現在の運動発表会の練習は、主に、体育の学習の中で実施しています。また、学年割り当ての運動発表会練習の時間も用いて実施しています。運動発表会実施の5月ゴールデンウィーク明けは、運動発表会に向けて、毎日があわただしくなるのが実情です。その学校の雰囲気と、毎日、外や体育館で体を動かして練習をすることに対して、体力的にも気持ちの面でも耐えることが難しい児童がいることもまた事実です。

現状の練習時間に加えて、更に練習時間を増やしていくことが、児童1人1人のことを考えた時に、本当に効果的であるのかは、十分な検討が必要であると考えます。

④ 紅白対抗リレーを実施すること

紅白対抗リレーは、学校の中で、「走ることに自信をもち、そのことがモチベーションになる児童」が選抜されて、全校の前で走る機会となるため、そのような児童にとって絶好の活躍の場となる上、全校児童にとっても、迫力あるリレーを見て声援を送ることについては、大きな意義と効果があると考えます。

ただし、紅白対抗リレーを実施することによる種目の増加により、児童の校庭で参観する時間が増えることとなります。今年度の全校参集運動発表会では、天候にも恵まれ熱中症の心配が少なかったことと、プログラムの精選により、時間が長くなりすぎることもなかったのですが、それでも、低学年の児童はもちろん、体力的に限界であったり、集中力がもたなかったりする児童がいたことが事実です。

そのため、種目を増やすことによって、会の実施時間を増やすことには十分な検討が必要です。

⑤ 係児童による主体的な会の運営をすること

高学年児童の係を決めて会を運営することにより、児童が主体となった運動発表会を実施することができます。また、そのことは、特に高学年の児童にとっては、成長の機会であり大きな効果があると考えます。

一方で、高学年は、学習すべき内容がたくさんあり、時数の確保に苦心しています。係児童を実施するには、係児童打ち合わせの時間を確保し、準備のための時間を確保し、運動発表会係児童確認会（予行練習）が必要になってきます。

係児童により会を運営するには、学習面の配慮だけではなく、高学年児童の体力的、精神的な負担にも考慮しなければいけないと考えます。

今年度、新たに学団実施の方法から全校参集の方法に変更したことについても、実施後のふりかえりの意見をもとに、**「子供たちのためにどうすればよいか」**学校において熟議を重ねてきた結果です。その結果、子供たちが生き生きと運動をする姿や他学年の発表に惜しみのない声援や拍手を送る姿や学年や学校全体で団結する姿を見ることができました。ただ、一方では、その方法ではない方が、より一層自分らしさを発揮し、生き生きと運動発表会に参加できる児童もいます。

以上の点を踏まえて、三小の運動発表会を、**「児童にとってよりよいものとするため」**には、多数の意見があるから方法を変更するでもなく、運営が難しいから現状維持をすることでもありません。いただいた意見をもとに、**「子供たち1人1人にとってどうなのか」**を議論の中心にして、今後も協議し検討していく必要があると考えます。そして、議論した結果については、学校が責任をもって決定しお示しします。そして、その方向性の中で最大限に子供たち一人一人の力を伸ばせるよう努力します。

今年度の運動発表会の形が、三小の完成形ではありません。これからも、よりよい三小の運動発表会の在り方を検討し、三小ならではの運動発表会を創り上げていきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。